

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472800293		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	グループホームなごみ		
所在地	大分県玖珠郡玖珠町大字山田2734番地		
自己評価作成日	令和 5年 8月19日	評価結果市町村受理日	令和5年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域行事への積極的参加と、なごみ内での癒しの空間作りに力を入れている。
また、家庭的な雰囲気作りをし、「やさしく」「ゆっくり」「寄り添って」をモットーとし、のんびりとした時間を提供します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・NPO法人としての役割や立地環境を活かした、地域との交流や外気を楽しむ支援が行われており、それらは理念に沿った利用者支援に繋がっている。
・毎食の手作りの食事や利用者の好物の購入・疾患に配慮した規則正しい食事・終末期の利用者に対する好物の支援など、食を通した楽しみや健康支援・生きがい支援の取り組みが行われている。
・職員の学びや研修に積極的な支援が行われており、地域の認知症の人や介護者支援にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を全員で確認し地域の一員として何ができるのか都度考えている。利用者の尊厳・それぞれの個性が守れるよう支援に努めており、場面々々で望まれることが行えるようコミュニケーションをとるようにしている。パンフレットに理念を記載しご家族にもお伝えしている。	理念は、利用者と職員が地域の様々な人や事業者と係わりながら、利用者一人ひとりの個性や特技を大切に過ごす日常に反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から野菜の差し入れや、小学校の運動会・地区の行事へ出向き参加している。散歩に出かけた際、地域の方に会うと優しく声をかけて下さり親しみを感じている。豪雨予報時には近隣の方や消防団も気にかけてくれており夜間など向かいの川を巡視して下さっている。	地域の小学校の運動会の招待を受け、見学・応援に出掛けている。案内はコロナ禍でも継続的に届けられており、今年度の見学時には、事業所にテントや座席も用意されている。年2回、地域の支援学校の生徒が作品を持参してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイト等を通じて町の取り組み(声かけ模擬訓練・オレンジカフェ)へ参加している。認知症心理カウンセラーが在籍しており地域の方の相談窓口として貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会で話し合われたことが一つづつ実現されている。施設前道路の白線塗り直しや自治会館カーポート設置の検討等	運営推進会議は、事業所運営状況の資料を作成し、各委員へ送付する形での書面開催で行われている。委員の区長や家族から、事業や行事の協力受け入れの提案を受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議出席時などに事業所の実情を詳細に説明し、行政との連絡を密にしている。特に昨今の豪雨災害時には前の川の状況の連絡、高齢者避難指示・避難所開設の早い段階での連絡等情報交換を行い、避難所の部屋の確保・避難用具の貸出し等協力して頂いている。	コロナ感染症5類となり、運営推進会議の開催方法について打診し、事業所の状況に合わせた開催方法での取り組みに繋がっている。風雨災害時、避難実働の際の連携や協力体制も取られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表・管理者を含めて研修会を年1回以上開催している。日中は玄関の鍵をせず好きな時に外に出かけられるようにしている。身体拘束廃止委員会を設置している。居室のベット柵を頭側1点のみにし自由に出来るようにしている。	利用者の行動や発言を、抑制・制限しない支援に努めている。屋内での利用者の行動開始時に注意を払い、屋外の散歩時は職員が川側を歩行しながら、散策する利用者を見守るなど、抑圧感のない見守り支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者の身体に現れた内出血等はボディチェックノートに記載し、こまめに観察し、原因・再発防止に努めている。虐待について年2回以上施設内研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修にて成年後見制度について学ぶ機会を持っている。日常生活自立支援事業も含め今後も学ぶ機会を増やしていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を設けて丁寧に説明している。特に利用料・看取り・リスク・重度化について事業者の取り組みを説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽にいつでも話して頂けるような雰囲気づくりに配慮している。ご利用者ご家族からの意見・要望を正しく理解し、どのようにして運営に取り入れていくのかミーティング等で話し合っている。	家族からの意見や要望は、利用料の持参時や電話での状況報告時を聞く機会にしている。利用者との面会後にも、家族の利用者への思いや要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時などに運営方針を説明し、職員の意思を聞く機会を設けている。意見や提案の検討、必要があれば随時意見を聞き迅速な対応を心掛けている。	月に1度ミーティングが開かれ、様々な話し合いが行われている。ミーティング簿や申し送りノートには、具体的な提案や返答などが詳細に記載され、全職員で共有されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直しを行い、休日・特別休暇・労働時間を改め、より良い環境作りを行っている。超過勤務については記入しやすい環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	JOT体制により、ケアの向上に努め、職員の資格修得を支援し、研修会への参加を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は同業者と交流する機会が少ないので、今後訪問などの機械を通じてサービスの質を向上させていきたい。交流会の参加の回覧を回しているが、勤務体制でなかなか参加できない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は、ご本人が発した言葉の一つ一つに耳を傾け、不安解消のために何ができるのか、職員間・家族等で話し合いながら支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や不安に思っている事にも耳を傾け、どのようにしたら良いか職員間で話し合い、ご家族にも提案しながら支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人・ご家族と面談し要望を聞き、サービス内容を理解して頂く。ご家族の要望に沿わない場合には、他施設との連携を図り、調整を行う。ご家族の納得の上で看取り介護・訪問看護の支援も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であり、何かを学びたいという気持ちを持ち、共に過ごし支え合い寄り添う介護を行う中で、感謝の気持ちを伝え、必要な存在であることを感じてもらえるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況が許すできる限りの面会を行い、家族との絆が続くよう支援を行っている。本人の状態・悩み・訴えなどをご家族にもお伝えし、意見を求めることもあり、ご家族と共にどのような支援が良いのか一緒に考える機会を作るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員や近隣住民と、地域での新たな馴染みに関係が作られている。地域行事の参加を積極的に行っている。	近隣住民から野菜の差し入れがあったり、散歩の際に利用者の自宅近くを散策し、庭や自宅を確認して穏やかに職員と会話を交わしている。事業所共用空間のソファで、寛ぎながらの面会も再開されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の会話は、以前に比べ増えている。個々の状態を認め合い、関わりを深められている。意思疎通が難しい場合は、職員が間に入りトラブル防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	代表・職員共に利用終了後も断ち切らない関係作りができており、ご家族・関係者からの相談・情報の交換を行っている。要望があれば他施設へ訪問等を行っている。又病院へ移られた方へのお見舞いなど退所された後も気にかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で希望や意向を聞き出せるようにし、その人らしい生活が送れるよう把握に努めている。会話の中で気持ちがこもった言葉を聞き逃さず、どういのお気持ちの現れなのかをミーティングなどで深く考え支援に反映している。	事業所利用開始時に、管理者が利用者や家族と面談して、利用者の情報把握を行っている。利用開始後は、職員がミーティング簿に利用者の気づきを記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	思い出話の中から本人の入居以前の生活歴を探り、その方の生活リズムに合ったその時々暮らし方・行動ができるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごした内容と心身の状態を、申し送りや経過記録等を用いて職員が把握できる。出来るかもしれないという思いを常に持ち本人の行動を観察し、有する力を発揮できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からの情報をもとに計画作成担当者が介護計画を作成し、月1回のミーティングにて利用者全員の現状把握・支援方法について検討している。	日々の気づきや課題について、利用者の情報を基に、介護計画作成担当者が介護計画を作成し、支援経過を基に毎月モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性を認識しており情報の共有ができるよう丁寧な記録を心掛け日々の職員間のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支えるための多機能化、ご本人やご家族のニーズには十分対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアサークルの訪問や子供デイサービスセンターの訪問があり、歌や踊り、子供たちとのふれあいの場がある。月2回ほどおたから文庫(小学生)が本を持ってきて下さったり紙芝居を披露して下さる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者個々の入居前からのかかりつけ医の継続受診を行っている。定期受診は、ご家族対応で行われることもある。緊急時は、職員対応での受診、情報の共有もを行っている。ご家族への報告も都度行っている。	7名の利用者が協力医を掛かりつけ医としており、月1回の訪問診療を受けている。他の利用者は家族対応での掛かりつけ医受診を行っている。急な受診対応は職員対応で行われ、家族への受診や病状の報告も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院と医療連携契約を結び、月1回 Dr.の訪問診療によって体調管理を行っている。訪問看護利用時は看護師との情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医と密に相談し、ご本人にとって一番良い環境を提供できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状態変化が起きた際は、その都度ご家族と話し合いを持ち、病院との連携によって対応できるようにしている。看取りに関する研修への参加や、資料にて情報の共有を行っている。今後の看取りケアではご利用者にできることをご家族・連携病院と協力し支援を行っていきたい。	利用者・家族の希望を把握し、事業所で出来る事を伝え、医師や訪問看護との協力体制の基での終末期・看取り支援が行われている。共用空間で、他の利用者や職員の会話や生活音を体感し、甘いものが好きな利用者には最後まで甘味を味合わせるなどの終末期支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、事故発生時に備えて普通救命講習へ参加しているが定期的に行っていないため、今後の緊急時に備え実践力を身に付けたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災避難訓練を行っている。近隣の方・消防団などの協力がある。月1回自然災害の話や、訓練をご利用者と共に行っている。水害では大雨で前の川の水位が増し氾濫の危険あり、ここ数年毎年実際に避難している。	避難訓練には、防災専門業者が参加、消火器や通報システムなどの点検整備も行われている。避難が想定される時期には、避難用物品を早めに準備し、車や職員・利用者の配置など具体的に記入された「災害マニュアル」に沿って、安全な避難所への移動が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い口調に留意したプライベートな場所での声かけやさりげない介助を心掛けている。ご利用者の個性に応じてわかりやすい言葉かけになるよう配慮している。	利用者個々の介護度の違いや理解の違いに配慮した言葉掛けや支援に努めている。集団でのゲームや行事の際にも、一人で過ごす利用者の個性を認めた声掛けや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に傾聴する姿勢を持ち相手の方に合わせた対応を心掛けている。信頼関係ができるようなコミュニケーションをし、遠慮なく希望が言えるように対応している。自己決定できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせられるよう寄り添うことを心掛けている。ご利用者が今希望されていることが把握できるようコミュニケーションを摂り、日々変化する希望に合った支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に来所して頂いている。衣類の汚れに気を配り、こまめに着替えを行っている。お気に入りの洋服をご家族が持ってきて下さる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で季節の野菜や花を育てており、ご利用者が季節を感じると共に収穫を楽しんでいる。収穫した野菜は調理し食事にお出しし喜ばれている。誕生会や丑の日、お盆、お正月などの行事食もあり楽しまれている。	共用空間の台所で、3食手作りの食事が作られている。季節行事や誕生日など、希望や季節感を取り入れた献立になっている。誕生日に好物の回転饅頭を満面の笑みでおおる利用者や、咀嚼や嚥下状態に合わせた食形態での提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態・量・食事制限や食事時の留意点を職員全員が周知している。一人ひとりの状態に応じてカットしお出ししている。各自のペットボトルを用意し飲みたい時に自分で飲めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれに適した口腔ケアを行っている。うがいが難しい方もいますが、わかりやすい言葉で伝えるようにしています。舌ブラシや口腔ティッシュを使用し口腔内の清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の状態を考慮しリハビリパンツ・布パンツを使用している。排泄状況を記録、排泄パターンや様子観察を行いながら自立に向けた支援をしている。また自尊心を傷つけないよう声かけには十分気をつけている。	利用者のほとんどがトイレでの排泄支援を受けている。入居時におむつ着用であった利用者の汚染確認や排泄間隔を確認し、リハビリパンツ着用となり、トイレでの排泄支援に改善した事例もみられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には声かけしトイレに長めに座ってもらい腹部マッサージなどの対応を行い牛乳・ヨーグルト・食物繊維など食事に配慮しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日が確定されているが、希望者がいる場合その日の入浴も行っている。また体調に合わせて清拭・シャワー浴など随時対応している。入浴後の水分補給やドライヤーで髪を乾かすなど快適な入浴になるよう支援している。	月曜から土曜まで毎日入浴支援が行われ、週2回の入浴を基本としている。シャワーチェアの利用や、重介護度の利用者は、足浴やシャワー浴で対応している。入浴剤の利用や、柚湯・しょうぶ湯などの季節を感じる入浴支援も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望と声かけにて、いつでも休めるようにしている。以前、家で使用していた家具や写真を置き、落ち着いた居室環境にしている。日中の活動や外気浴・外出等を行い安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された場合は、副作用・留意点について情報を共有している。チェック表を用いて、2名での服薬確認、不足や間違いが無いが再確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中で趣味や得意なことを見つけ発揮できるよう機会を作っている。誕生日にはご本人の好きな食べ物を事前にお聞きしてお出している。生きがいや役割を持ち、張り合いのある日々を過ごして頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、庭や畑、近隣へ散歩にでかけている。また、花見や高塚地蔵尊参拝など、体調を考慮しながら外出している。	事業所周辺の散歩や中庭の草むしりをするなど、日常的に外気を楽しむ支援が行われている。椅子2脚を持ち出して日向ぼっこをする利用者や、高塚地蔵の茹で饅頭を希望する利用者と車で出掛けたり、ドライブで花見を楽しむなどの支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、買い物ができるように財布を準備し、ご自分で支払って頂いている。普段の金銭管理はご家族が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等のプレゼントのお礼の電話は、ご本人がかかるようにしている。年賀状・暑中見舞いなどご本人がかかる範囲で書いていただいている。職員のお手伝いが必要な方は書きたいことなどを聞きながら一緒に書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デイルームの窓から花や野菜が見え、生け花や収穫など自由にできるようにし、季節感・生活感ある暮らしが出来るよう工夫している。数か所にソファなどを用意し、ご利用者の方が思い思いに過ごせる共有空間作りを行っている。	利用者が、食卓スペースと応接スペースそれぞれの場所で自由に穏やかに過ごせる共用空間づくりが行われている。共用スペースで複数の利用者と職員がゲームを楽しんだり、日の当たる場所で髭剃りをする利用者など、皆が思い思いに過ごせる居心地の良い場作りが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置替え等、利用者が居心地よく暮らせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れた家具を持ち込んで頂き、家庭的な雰囲気でも過ごせるよう心掛けている。また、写真を飾り、安心してくつろげる空間が出来るようにしている。ペット柵は職員の手作りの布カバーで保護され温かみのあるものになっている。	二人部屋では、プライバシーが保てるベッドの配置がとられ、二人の相性や関係性が大切にされている。衣替えや寝具交換は職員対応で行われ、椅子のぐらつきを確認するなど安全面の配慮も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや各自の居室の入り口に名前を書いた札を掛けており、字に大きさ・目線に入る位置を考えスムーズにいけるよう工夫している。また、目が見えにくいご利用者がケガのないよう環境整備を心掛けている。		